

登録コード	EKE05900	開講年度	2026			
授業科目	学校におけるICT活用				担当教員	佐藤 和紀 他
英文授業名	ICT Use in Classrooms				副担当	谷塚 光典・林 寛平・森下 孟
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年
講義室	教育学びセンター 201		授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	非該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】	
	26EAカリ、25EAカリ、24EAカリ					
	教育の専門職としての学識・技能				・教育の専門職として必要なデジタル学習基盤に関する実践的知識や技能を身につける	
	26EAカリ、25EAカリ					
	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				・教育の専門職として必要なデジタル学習基盤に関する実践的な発想力と深い省察力を養う	
(2)授業の概要	本授業は、授業参観とその検討及び授業実践とその検討により、小グループで展開する。 授業参観においては、教職大学院拠点校（附属学校または公立学校）におけるICT活用授業を参観する。参観した授業の検討では、 デジタル学習基盤の設計、 デジタル学習基盤の効果、 デジタル学習基盤による個々の児童・生徒の変容および学習集団としての学級の変容、の3視点から検討する。 授業実践においては、大学での講義及び授業参観に基づいて、ICTを活用した授業を構想し、ICTを活用した個別学習及び協働学習の場面を設定した授業実践を行う。授業実践の検討では、授業参観の検討と同様に、 デジタル学習基盤を活用授業の設計、 デジタル学習基盤の効果、 デジタル学習基盤の活用による個々の児童・生徒の変容および学習集団としての学級の変容、の3視点から検討する。 担当教員が小学校での実務経験を活かして講義及び授業構想の助言を行います。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス - 本授業の進め方 - , デジタル学習基盤・情報活用能力の最新の動向 第2回：デジタル学習基盤を活用した授業参観 第3回：デジタル学習基盤を活用した授業参観の検討 第4回：デジタル学習基盤を活用した授業実践の構想（指導案の検討） 第5回：デジタル学習基盤を活用した授業実践 第6回：デジタル学習基盤を活用した授業実践の検討 第7回：まとめ：次期学習指導要領を実現するためのデジタル学習基盤の環境構成、情報セキュリティと情報モラル					
(4)成績評価の方法	○フィールドポートフォリオの作成状況:100% ○得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。					
(5)履修上の注意	・授業参観及び授業実践は、小グループを編成し、グループごとに展開する。 ・授業実践の授業者および日程については、授業で調整する。 ・教育実習等で欠席する場合には個別に代替措置を講じますので、必ず十分に前もって相談してください。事後の対応には応じられない場合があります。（学部授業を科目等履修する場合には、教職大学院の授業が優先されます） ・授業アンケートの依頼がある場合にはご協力をお願いします。					
(6)質問,相談への対応および連絡先	佐藤研究室（附属次世代型学び研究開発センター2F）E-mail：sato_kazunori@shinshu-u.ac.jp 森下研究室（附属次世代型学び研究開発センター2F）E-mail：morisita@shinshu-u.ac.jp 谷塚研究室（北校舎2階N211）E-mail：yatsuka@shinshu-u.ac.jp 林研究室（北校舎3階N307）E-mail：kampei@shinshu-u.ac.jp					
(7)成績評価の基準	「卓越している」：学校におけるデジタル学習基盤の活用の全体像を理解し、個々の児童・生徒の学びを反映させながら、事例検討においてねらいに示した を関連づけて検討している。 「かなり上である」：学校におけるデジタル学習基盤の活用の全体像を理解し、事例検討においてねらいに示した を関連づけて検討している。 「やや上にある」：学校におけるデジタル学習基盤の活用の全体像を理解し、事例検討においてねらいに示した のうち2つを関連づけて検討している。 「水準にある」：学校におけるデジタル学習基盤の活用の全体像を理解し、事例検討においてねらいに示した のいずれかについて検討している。					
(8)事前事後学習の内容について	・小グループによる参観授業の検討においては、デジタル学習基盤に関する問題意識を明確にしたうえで授業を参観する。授業参観後には、授業でのディスカッションの内容を基に、新たな気づきや視点を記録しておくこと。 ・デジタル学習基盤を活用した授業の構想および実践においては、授業者は、学習指導案をeALPSで事前に共有すること。参観者は、参観前に観察の視点を明確にして参観に臨むこと。実践・参観後には、実践・参観により得られた新たな気づきや視点を記録しておくこと。その記録に基づいて、実践の検討を行う。 ・この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って、30時間以上の時間外学習が必要となります。					
【教科書】	文部科学省：論点整理 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/mext_00010.html 文部科学省：中央教育審議会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）【令和3年4月22日更					

【教科書】	新】 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm 文部科学省：初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン https://www.mext.go.jp/content/20241226-mxt_shuukyo02-000030823_001.pdf その他，適宜，授業中に資料を配布したりWebサイトを提示したりする。
【参考書】	佐藤和紀・三井一希・泰山裕，デジタル学習基盤と情報活用能力，東洋館出版社 稲垣忠・佐藤和紀，ICT活用の理論と実践 Ver.2 DX時代の教師をめざして，北大路書房 株式会社ストリートスマート・堀田龍也・佐藤和紀，忙しすぎる先生のための校務×クラウド 現場の先生20名が実践する校務がはかどるアイデア75事例，インプレス 堀田龍也・佐藤和紀・泰山裕・大久保紀一郎，これができる！ 個別最適な学びと協働的な学び：GIGAスクールはじめて日記，さくら社